

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 成人看護学分野科
目コード:240005-0

がん看護学演習Ⅲ Oncology Nursing Ⅲ

担当教員	臺 美佐子、瀧澤 理穂				
実務経験					
開講年次	1年次通年	単位数	1	授業形態	演習
必修・選択	選択	時間数	30		
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	◎	(3)	○
Keywords	がん看護事例検討				
学習目的・目標	学習目的: 複雑な問題を抱えるがん患者および家族へのがん看護実践について、さまざまな施設における看護実践の事例検討を通して、エビデンスに基づいたアセスメント能力と問題解決能力を習得する。 学習目標: 1.各施設における困難な事例を分析する過程で必要な病状に関する病態生理学的把握と治療への適切な支援方法について探求できる。 2.がん看護実践の内容と相談者の相談内容を理解できる。 3.さまざまな施設における看護師の専門的介入内容から、事例の問題解決に必要な情報の抽出の視点、問題解決にむけた焦点のあて方について理解できる。 4.事例検討を通して、その事例における看護上の問題の分析を行い、解決に向けた介入・調整方法を検討できる。				
授業計画・内容					
回	内容	授業方法	担当		
1-12	がん看護の事例について、グループワークを行い、ディスカッションに参加しながら、問題解決のための視点、焦点の当て方、介入の実際、介入の評価について理解する ①倫理的問題解決に向けた看護師の役割(告知、治療選択、終末期看護など) ②在宅移行(退院支援)に関する看護師の調整力 ③放射線療法中の患者に対する看護 ④疼痛コントロール(緩和ケア)に向けた医療チームでの看護師の役割 ⑤化学療法中の患者支援 ⑥リンパ浮腫に対するケア ⑥実存的苦悩(スピリチュアルペイン)のケア ⑦AYA世代のがん患者支援	演習・グループワーク・討議	臺、瀧澤		
13	受講生自身が体験した複雑な問題をもつがん患者・家族についての事例を発表して問題解決に向けた介入方法について検討する	演習・討議	臺		
14,15	1. がん薬物療法の看護に関する研究論文を精読し、その内容を発表、討議する 2. がん患者のいまだく治療中の苦痛症状および苦悩の包括的理解の現状とその課題。がん治療を継続するために必要な専門職としての介入について検証する	演習・討議	臺		
教科書					
参考図書等	随時紹介する				
評価方法・基準	グループワークとディスカッションへの態度(50%)およびレポート(50%)				
関連科目	がん看護学演習Ⅰ、Ⅱ				
教員から学生へのメッセージ	この演習では、主にグループワークとディスカッションを通して、がん看護分野における主要な実践知識と技術を学びます。国内外の論文の精読と受講生自身の看護経験とを照らし合わせ、リフレクションと今後の展開についてディスカッションすることで学びを深めていきましょう。				